2021年(令和3年)

第16号

(9月21日)

平安だより

HEIAN letter

発 行 所:立正佼成会 京都教会 発行責任者:涉外部長 田中規之 編集委員長:涉外広報 植田恭司 〒605-0041 京都市東山区三条東町230

TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

パラリンピック東京大会 ~府内の採火式に会員が参加~



左端の車いすの女性が塩田さん(2021年8月17日京都新聞より)

今年、東京パラリンピックが8月24日から9月5日まで行われ、コロナ禍のため無観客だったことは記憶に新しいことだと思います。

東京開催にあたり、聖火リレーは8月12日から24日まで全国を舞台に行われました。五輪の聖火はギリシャ・オリンピア市のヘラ神殿跡で採火されますが、パラリンピックの聖火はパラリンピック発祥の地であるイギリスのストーク・マンデビルで採火された火と、国内全都道府県で採火された火を集火してパラリンピック聖火が生み出されました。

京都府では府内 17 市町で採火をし、府庁所在地である京都市の京都府庁で府内集火式と出立式を行いました。そのうちの1つ、8月15日に舞鶴市の舞鶴引揚記念公園で行われた式典に、京都教会の塩田桐子さん(舞鶴市出身)が参加されました。

参加されることになったきっかけは、1984年のパラリンピックに塩田さんが出場され、金メダルを獲得されたからによるものです。出場された競技は「陸上

女子スラローム」というもの。 現在のパラリンピックに、この 競技はありませんが、障害物走 のようなでものでタイムを競い ます。

1984 年のパラリンピックとは、どのような大会だったのかを振り返ってみますと、当初は

アメリカ合衆国のニューヨーク州とイリノイ州で開催する予定でした。ニューヨーク州では切断者、視覚障害者、脳性麻痺者の競技、イリノイ州では背髄損傷者の競技でしたが、開催の半年前になってイリノイ州が財政難のため、この州での開催は不可能になりました。そのため、国際ストークマンデビル競技連盟が受け皿となって、イギリスのアイルズベリーにあったストークマンデビル病院で「第7回世界車椅子競技大会」として背髄損傷者の大会を開催することになったものです。塩田さんも競技に参加するために渡英されました。

そもそも、国際的な障がい者のスポーツ大会は、1924年に設立された国際ろう者スポーツ連盟(※)が、同年にパリで開催した第1回国際ろう者スポーツ競技大会(現デフリンピック)が初めて。第二次世界大戦後の1948年、ロンドンオリンピックにあわせてストーク・マンデビル病院内で16名の車いす患者(英国退役軍人)によるアーチェリー大会を開催したことがパラリンピックの原点です。この大会は毎年開催され、1952年にはオランダの参加を得て国際競技会へと発展し、第1回国際ストーク・マンデビル大会をりました。1960年、イギリス、オランダ、ベルギー、イタリア、フランスの5か国により国際ストーク・マンデビル大会委員会が設立され、日本国内では1962年、2年後の国際身体障がい者スポーツ大会の開催に向け準備委員会が設立されました。(※: 聴覚障害)

「パラリンピック」という名称は、「オリンピック開催年にオリンピック開催国で行われる国際ストーク・マンデビル大会」=「Paraplegia (対まひ者)」の「Olympic」=「Paralympic」という発想から、1964年の東京大会の際に日本で名付けられた愛称でした。

今回、採火式に参加された塩田さんは「コロナ禍で 大変な状況ですが、アスリートのベストパフォーマン スと、それを力に平穏な日常に戻ることを祈念したい です」と話されました。

京都教会にこのような会員がおられて、大変嬉しく 思います。次回の 2024 年パリ大会でも日本選手の活 躍に注目したいと思います。